

斑点米カメムシ類対策

秋田県病害虫防除所より7月12日に発表された令和4年度農作物病害虫防除対策情報第4号によると、水田畦畔における斑点米カメムシ類の発生が多いと発表されています。特に畦畔にイネ科雑草が多く残っている圃場で多数確認されています。

ノビエやホタルイ等カヤツリグサ科雑草が多く残っていると、斑点米カメムシ類の圃場内への侵入が多くなり、被害が増えてしまいます。被害粒が多すぎると、色彩選別機を利用しても取りきれません。

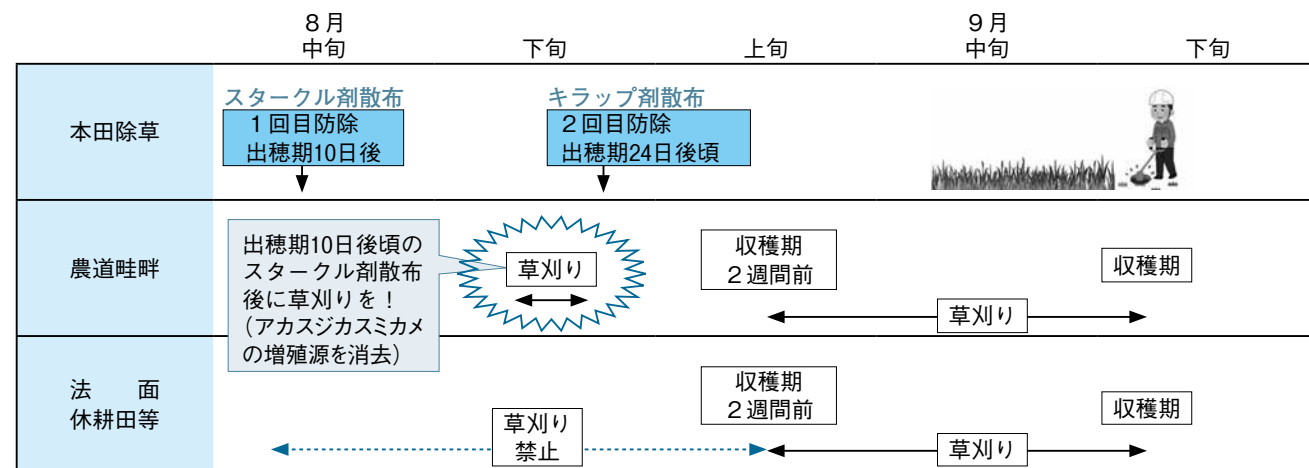
圃場内や畦畔、農道、休耕田などの雑草地の除草、草刈り、薬剤防除を組み合わせることで斑点米カメムシ被害を抑えましょう。

主なカメムシの特徴と防除概要

1. 耕種的防除

①出穂期10日後頃に薬剤防除を行い、散布後5日以内に畦畔や農道の草刈りを実施し、アカスジカスミカメの増殖源となるイネ科雑草を除去します。その後、稲の収穫2週間前まで草刈りを行います。

②法面や休耕田などで薬剤を使用しない雑草地は、稲の出穂10日前までに草刈りを実施し、その後収穫2週間前までは草刈りを行います。



2. 薬剤防除

通常の防除は出穂期10日後頃の1回散布を基本としますが、今年はカメムシの発生が多く、ノビエ、ホタルイ等の雑草がある場合、出穂期10日後頃と出穂期24日後頃の2回散布を基本としましょう。

散布時期	薬剤名	希釈倍率／散布量 (10aあたり)	適正使用基準	
			使用時期	使用回数
出穂期10日後頃	スタークル粉剤DL	3kg	収穫7日前まで	3回以内
	スタークル液剤10	1,000倍／60～150ℓ		
追加防除 出穂期24日後頃	キラップ粉剤DL	3～4kg	収穫14日前まで	2回以内
	キラップフロアブル	1,000～2,000倍／60～200ℓ		



No.5

農業技術情報

令和4年8月発行

発行：秋田おばこ農業協同組合／秋田県農業共済組合仙北支所

監修：仙北地域振興局農林部農業振興普及課



実りに向けて重要な時期 水管理で

管内の7月15日現在の生育状況は、草丈は68.1cmで平年より長く、茎数は439本／㎡で平年より少なく、葉色はやや淡くなっています。

長期予報では、8～9月は気温が高いと予報されているため、高温登熟に対応した水管理が必要です。ただし、少雨傾向であるため水不足が心配されます。地域で協力し合い水回しを行うようお願いします。

あきたこまち定点調査結果（7／15）

	草丈（cm）	茎数（本／㎡）	SPAD値	葉数（葉）
本年値	68.1	439	40.0	11.3
平年値（平年比）	62.1（110％）	543（81％）	41.5（96％）	10.9（＋0.4）
前年値（前年比）	64.7（105％）	526（83％）	40.9（98％）	10.8（＋0.5）

8月の栽培技術留意点

高温登熟対策

白未熟粒や胴割れ粒は高温登熟によって発生しやすくなります。水管理で対策を取り、被害を軽減させましょう。限られた水資源を有効利用するため、節水を心がけながら、地域で水回しの話し合いをするなどして、智力を結集し気象変動を乗り切りましょう。

高温登熟対策

水管理で根を冷やす
地域で協力し合い水回し

病害虫雑草対策

いもち病が上位葉で発生している圃場では、穂いもちに移行する危険性が高いです。圃場観察と早期防除を引き続き行ってください。

ノビエやホタルイが多い圃場では、斑点米カメムシ類の圃場内への侵入が多くなり、斑点米被害が増えてしまうほか、雑草種子が圃場内に落ちてしまうと、翌年以降、雑草が多発します。この時期に圃場内で使用できる除草剤は無いので、早期に抜き取りを実施してください。



たとえば…



令和5年新規加入受付中

※詳しくはNOSAI秋田仙北支所まで
TEL 0187-63-1066

高温对策

今夏も高温が予報されています。高温登熟によって発生する白未熟粒や胴割れ粒、くさび米は実需者からは嫌われており、これらが多くなってしまうと産地評価の低下に繋がってしまいます。登熟期に可能な対策は水管理のみですので、溝切り跡を利用して効率的な水管理をしてください。ポイントは根を冷ますことです！高温時は水を入れ替えたり、溝切り跡に水を走らせたりするだけでも地温上昇を防ぎ、根の活力減退を抑えることができます。

また、用水不足の地域では、地域で協力しあい水回しを行ってください。

出穂期～登熟期の水管理

出穂当初は水を多く必要とする時期です。走り穂が出始めてから穂揃い期までは水深5～6cm程度の湛水管理とします。その後、落水期まで2～3cmの浅水、間断かん水を行います。

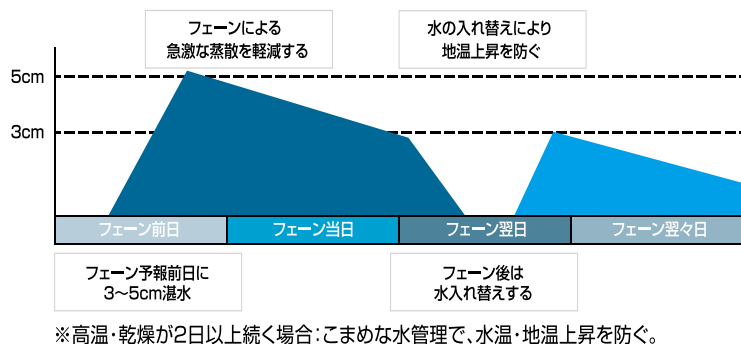
落水の時期は、概ね出穂後30日とします。早期に落水すると葉色の低下、枯れ上がり、根の機能減退によって収量・品質・食味が低下するなどの悪影響を及ぼします。圃場や用水の条件によりますが、収穫作業に支障の出ない時期まで落水を遅くすることがポイントです。



過去5年間の出穂後積算気温到達日 (大曲)			
	出穂期	950℃到達日	1050℃到達日
H28	8月4日	9月12日	9月17日
H29	8月7日	9月18日	9月24日
H30	8月3日	9月12日	9月18日
R1	8月1日	9月9日	9月14日
R2	8月1日	9月6日	9月10日

高温時、フェーン時の対応

日中の最高気温32度以上の日やフェーン現象により乾燥した風が吹く場合は、根の吸水量より葉の蒸散量が多くなり、葉先枯れや株元の枯れ上がりが進み、登熟不良の原因となります。事前に予想される場合は、早めにしっかりと灌水し、登熟障害を回避してください。



穂いもち早期発見・早期防除

葉いもちが多発している圃場に隣接している圃場では、出穂期～7日後にトライ剤かラブサイド剤の茎葉散布をしてください。

葉いもちが発生している圃場では、出穂直前にトライ剤かビーム剤、穂揃期にトライ剤かラブサイド剤の茎葉散布を行ってください。

葉いもちが多発している圃場では、上記に加え傾穂期にラブサイド剤による追加防除を行ってください

○防除方法

農 薬 名	粉剤 D L	ゾ ル フロアブル	散布時期	散 布 量 又 は 希 釈 倍 数 (散 布 液 量)
ト ラ イ	—	○	出穂直前 穂 揃 期	粉剤 D L : 3 ~ 4 kg / 10 a ゾル・フロアブル 1,000倍 (100 ~ 150L)
ビ ー ム	○	○	出穂直前 穂 揃 期	
ラブサイド	○	○	穂 揃 期 傾 穂 期	

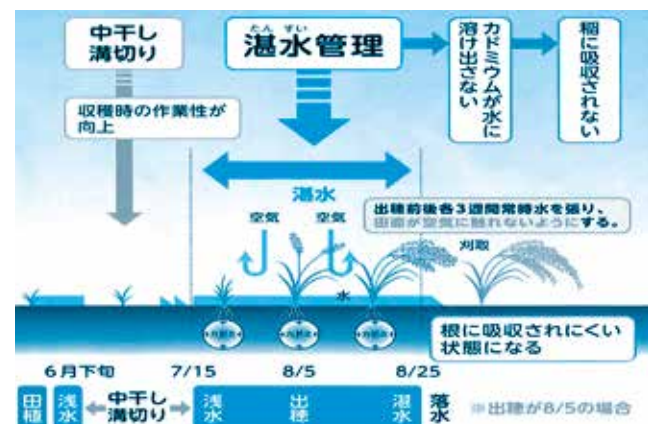


※フサライドの本田での使用回数は3回以内なので注意する。
(フサライドはラブサイド剤、ブラシン剤に含まれる成分です。総使用回数に注意してください。)

ビームゾルは傾穂期以降に散布すると薬害を生じることがあるため注意が必要です。

カドミウム対策

対象地域では、カドミウムを稲に吸収させないため、出穂前後各3週間は常時水を張り、田面が空気に触れないように管理してください。カドミウムは土壤中の酸素が少ない状態になると土壤中の硫黄と結合し水に溶けにくくなり、稲に吸収されにくくなります。



出穂期～登熟期の水管理

出穂後日数	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35
あきたこまち	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7
ゆめおぼこ	8/7	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21	8/22	8/23	8/24	8/25	8/26	8/27	8/28	8/29	8/30	8/31	9/1	9/2	9/3	9/4	9/5	9/6	9/7	9/8	9/9	9/10	9/11
管理 の 目 安	出穂期	フェーン時は水管理で地温冷やせ！ ※上図参照										出穂期10日後頃 斑点米カメムシ類 1回目防除 スターフル剤										出穂期24日後頃 斑点米カメムシ類 2回目防除 キラップ剤														
		草刈り禁止期間(出穂10日前から)										1回目防除後5日以内に草刈り 農道、畦畔含む										草刈り禁止期間(収穫14日前まで)														
		花水(水深3cm程度湛水)										間断かん水										排水不良田落水期					早期落水禁止 溝切り跡活用し実らせよ									
		白未熟粒発生危険期 日最高気温32℃以上、夜間25℃以上は水入れ替えて地温冷やせ!																					白未熟粒発生警戒期							刈り遅れ注意						
生育時期	開花期						登熟期														落水期															